



開設10周年に寄せて

社会福祉法人正清会
理事長 三好正規

地域の皆さまの福祉に対する熱い想
いが結実し、この佐山の地に賀宝の里
白松苑が開設され、10年が経ちました。
この10年間、賀宝の里白松苑を支えて
くださった、利用者の皆さま、地域の
皆さま、ボランティアの皆さまに深甚
なる敬意と謝意を表します。

平成19年春、賀宝の里白松苑が落成、
運営開始した日のことを昨日のように
鮮明に記憶しております。森の中の白
いお城のような、今にも白雪姫が出て
きそうな斬新な建物で、中に入ります
と、今までとは違った、ユニットケア
システムの全室が個室の居室がありま
した。長い一本廊下ではなく、居室が
ご自分の家庭の部屋と同様に、温かく
繋がっております。中央にキッチン・ダイ
ニングがあり、家庭的な雰囲気を醸し
出しておりました。これなら歳をとつ
て、たとえ介護が必要になつたとしても、
家庭的な雰囲気の中で達和感なく
暮らすことができ、ご家族とのコミュ
ニケーションも誰にも遠慮することな
く、楽しく充実した毎日を送れるもの
だと確信いたしました。

それからの10年間、地域に開かれた
運営を目指していく中で、ご利用者の
皆さまからの評価をいただき、周辺地
域からのデイサービスやショートステ
イの利用も多くなり、皆さまに愛され
る施設になつているのではと、手ごた
えを感じております。

また、職員の日々の努力の結果、

この10周年という記念すべき年に、「ユニットケア研修実地研修施設」

に指定が決定したというニュースを
皆さんに報告できることを、とても
嬉しく思います。この実地研修施

設とは、ユニット型施設でリーダー
となる介護職員を全国から受け入れて、
研修を行う施設で、言わば介護施設
のモデル的存在、トッププランナーと
認定されたということであり、山口

県内では2施設目、特別養護老人ホ
ームでは初めての認定となります。

現在政府は、高齢者政策の中で、
住み慣れた地域で、可能な限り、自
立した日常生活を営み、切れ目のな
い医療・福祉の地域完結を唱えてお
ります。地域に住んで見慣れた川や
山々、いつも会話を楽しんだ近隣の
方々に囲まれながら生きていく、こ
れこそが、地域包括ケアシステムと
呼ばれているものであります。勿論
その周囲には、医療・福祉・行政、
地域団体がサポートするシステムが
あり、このような状況の中で、いつ
までも健康で、安心して樂しい
人生を享受してほしいもので
す。今後さらに努力を重ね、
20年、30年後に地域になくて
はならぬ施設として、そし
て社会的財産の一つとして
ます。今後さらに努力を重ね、
地域の福祉の向上、発展
に貢献することができま
すように努めて参ります
ので、今後とも変わらぬご
指導をよろしくお願ひ申し
上げます。

年間の感謝をこめて YEARS ANNIVERSARY

かがほの
風

4月号

発行/印刷
社会福祉法人正清会
賀宝の里白松苑
山口市佐山158
TEL 083-988-2555

私の仕事が、好きです。



中尾亮子（介護主任）
法人通算19年勤務

この仕事に携わり、19年。思い出は一言では言いあらわせません。たくさんの利用者さまのお顔が思い浮かびます。ただ言えることは、名前を覚えていただき、利用者さまに呼んでいただいたことが、何よりも私は心地よいこと。たくさん利用者は、奥が深く、またその方お一人おひとりの人生の重み、発せられた言葉の重みを感じます。人生の大先輩の傍にいる自分があります。利用者さま、「家族、地域、ボランティア、職員みんなに感謝です。これからも賀宝の里で、「ああ、ここに来て良かった」と思っていただけるようにしたいです。あなたの家族になりたいと大きなことは言えませんが、あるときは孫のような、娘のような、口うるさいオバさんでもいいので、傍にいさせてもらつて、一步でも近くに寄り添えたらいいなと思います。今日と同じ日はありません。みなさん毎日毎日を一生懸命に生きておられます。長生きしてこられ、長い人生を歩んでこられ、苦しいとき、嬉しいとき、寂しいときなどたくさんのこと経験してきた利用者さまです。今日一日を「よかつた。」と、無事終えることができたと、利用者さまに「賀宝の里に来てよかつたな。」と心から思つていただけるように、これからも勤めさせていただければと思っています。

本谷唯（介護員）通算9年勤務

一番心に残っていることは、食事がほとんど入らず、口に入れてもすぐに出される方がおられました。ところが私がお昼に食べていたお菓子を渡してみるとバリバリと食され、食べられるんだ！と。それから「このお菓子なら食べててくれたよ！」などとみんなで話し合いながら、少しでも食べてくれた時の嬉しさは忘れられません。ご飯を食べてもらわなきゃ！という思い込みから「私たちだって欲しくない物は欲しくない、好きな物は別腹。」と自分に置きかえて考えられるようになりました。自分の目指すものや介護観を共有でき、同じ目標に向かっていくことのできる仲間に出会え、ここまで続けてこられました。たくさんある施設やデイサービスの中から賀宝の里を選んでいただいたことを忘れず、ご家族よりも長く一緒に過ごさせていただいているこの時間がどれだけ貴重なものかということを肝に銘じて、感謝の心でこれからも全力でお仕事をしていきます。



齋藤彩乃（介護員）勤続10年

特養とデイサービスにそれぞれ5年ずつ勤めました。学校を卒業し、できたばかりの施設に入職、社会人最初の勤務がなんと夜勤でした。落ち込んでいる時に利用者さまが慰めてくれたこと、逆に怒られたり気まずくなってしまったこと、名前を覚えてもらって呼んでもらえたこと、大切な仲間ができたこと、つらい別れもあったことなど、思い出はあります。この10年、「この仕事が天職だ！」と思えるときもあったし、「もう辞めたい」と思った時もありました。私なりの仕事を続けるコツは、『どんな仕事をしていても良いことばかりなんてありえない』と思うこと。メンタルやモチベーションが落ちていても、きっとまた上がる時がくるだろうから、それを待つことです。この10年、賀宝の里は利用者さまのことを第一に考え入浴方法や、食事の提供方法など、様々なことを工夫し、その方の想いや暮らしに寄り添おうとしてきました。今後もその取り組みがさらに加速していくよう、微力を尽くしたいと思います。



伊藤朝子（看護師）
勤続10年

この10年で一番の思い出は利用者さま、職員との出会いや別れです。同じ会社に10年働くということは、『自分が必要とされている。』という気持が大切だと思います。いろんな地域の行事に参加させていただきました。地域の方々の感謝の念を感じました。これからも賀宝の里をよろしくお願いいたします。



近藤多恵子（介護員）
勤続10年

慣れない仕事に手間取り、失敗したこと：病気で入院：皆さんに迷惑をかけたことを色々思い出します。それでもなんとかここまで続けてこれたのは、仲間の支えと助けがあればこそ、感謝の気持ちでいっぱいです。それになにより利用者さまの笑顔と「『飯美味しいよ』の一言が励みでした。初心にかえり、また一步踏み出していきます。



岡村寿子（調理員）
勤続10年

ヨココス
日本ユニットケア推進センター
ユニットケア実地研修施設に

指定決定！

実地研修施設指定基準の一例

- リビング（居間）に個性があるか？
- 椅子は足裏がつく高さで数種類あるか？
- 入浴はマンツーマンで援助しているか？
- 入居者それぞれの生活習慣（リズム、ペース）や好みが記録、把握されているか？
- 家では飾らないような、折紙や掲示物がないか？
- 食器は樹脂（プラスチック）ではなく、統一されていないか？

など

賀宝の里が開設して十年。その間、ユニットケア（小グループでの個別の介護）に取り組んできました。ユニットは、リーダーが配置されており、そのうち最低2名以上は「ユニットケア研修」を受講することとされています。ユニットケア研修では、3日間の講義に加え、先進的にユニットケアを行う「実地研修施設」で5日間の実習を行います。日本ユニットケア推進センターが指定する「ユニットケア研修実地研修施設」は全国で61施設。全国1万施設に迫る特別養護老人ホームのモデル的な存在で、ベスト61と言つても過言ではありません。賀宝の里は開設以来、「ユニット

の間、ユニットケア（小グループでの個別の介護）に取り組んできました。ユニットは、リーダーが配置されており、そのうち最低2名以上は「ユニットケア研修」を受講することとされています。ユニットケア研修では、3日間の講義に加え、先進的にユニットケアを行う「実地研修施設」で5日間の実習を行います。日本ユニットケア推進センターが指定する「ユニットケア研修実地研修施設」は全国で61施設。全国1万施設に迫る特別養護老人ホームのモデル的な存在で、ベスト61と言つても過言ではありません。

トケアを極め、いつかは実地研修施設になる！」と目標を掲げ、4年前から本格的な取り組みを開始。この度、二度目の受審にて260項目にも及ぶ厳しい審査に合格し、実地研修施設に指定されことになりました。県内では宇部市にある「老人保健施設ペアレン」と、続いて2施設目で、特別養護老人ホームでは初の指定となります。全国から介護施設の中核を担うリーダーたちが、賀宝の里の介護を学びに来られます。実地研修施設の名に恥じぬように、実習生と共に考え、学ぶ姿勢で公的な役割を果たしていきたいと思

平成29年度 社会福祉法人正清会 事業計画
(賀宝の里白松苑部分を抜粋)

<特別養護老人ホーム / ショートステイ>

1. ユニットケア実地研修の受入れ体制の整備

- ①理論的に根拠をもった説明、指導ができる職員の養成、指導マニュアルの整備
- ②24時間シートの内容を充実させ、プランに基づいたケアをさらに定着させる
- ③推進センターからの指導に基づいた、設えやケア方法、体制の改善
- ④記録システムを活用し、情報の一元化、共有化を図る
- ⑤ユニットケアの研修や勉強会を開催し、職員全員の知識・技術の向上を図る

2. 接遇・接客マナー向上に関する取り組み

- ①接遇・マナー向上に関する職員研修の実施
- ②入退居時や誕生日の利用者、家族への声かけの実施
- ③おもてなしの心で、設え、清掃等内外の環境整備を行う

3. 褥瘡・感染症対策の強化

- ①褥瘡・感染症に対する職員研修の実施
- ②OHスケールを用いた褥瘡の予防、早期治療
- ③褥瘡・感染症マニュアルの見直し

4. 地域貢献活動

- ①法人としての地域貢献活動への協力
- ②地域のニーズを探り、実施可能な地域貢献活動を検討する

5. 省エネ、経費削減に向けた取り組み

- ①電気使用的マネジメントを行い、電気代の削減を図る
- ②介護用品、事務物品の種類や業者を見直し、コスト削減を図る

<デイサービス>

1. 機能訓練プログラムの充実を図る

- ①体と脳の機能アップ教室、足腰機能アップ教室のプログラムの充実を図る
- ②生活目標、評価方法に合った科学的なプログラムの実施

2. 運営推進会議の充実

- ①利用者や家族の意見を反映し、きめ細かいサービスの提供を目指す
- ②行政職員や地域との意見交換を通じ、地域ニーズを把握し、新たな利用者獲得を目指す

3. 送迎時の安全への配慮

- ①安全運転に関する職員研修の実施
- ②始業前に車両の点検や、ミーティング、体操を実施

はっぴいデイ

11月より始めた体と脳の機能アップ教室。第1号の利用者Kさんは、デイサービスに来られるとすぐにご友人と一緒に散歩に出かけ、「季節を自分の肌で感じられるから気持ちがいい」と言われます。テンポよく歩かれるので、スタッフはついて行くのがやっとです。よく「何か手伝うことはないかね?」と声をかけて下さり、食事の配膳や下膳、お皿洗い、掃除などををお願いすると、「毎日していることだか



ら」と快く引き受けて下さいます。食事の配膳では、初めはお盆に置くお皿の並べ方や「○○さんの所へお願ひします」と言っても、「えっ、どなた?」と聞かれていきましたが、今では、「次は○○さんね、おまたせしました」とスタッフ顔負けの接客です。その自然なお姿は、私の方が見習いたい…。Kさん、これからもよろしくお願いします。筋力測定やバランステストで機能アップの効果も出てきて、私たちもうれしいです!



〒754-0894 山口県山口市佐山 158 番地
Tel 083 - 988 - 2555
Fax 083 - 988 - 2552

【尊厳・敬愛・和】
社会福祉法人 正清会
かがわは はくせい うえん
賀宝の里 白松苑

メール：kagaho@hakusyoen.jp
ホームページ：<http://www.hakusyoen.jp>

生活から暮らしへ

ずっと普通に「暮らす」

○特別養護老人ホーム

ぼたん

るり

やまぶき

(全室個室・ユニット型)

施設から住まいへ

いつ來ても、私の「住まい」

○ショートステイ

もえぎ

(全室個室・介護予防対応)

他人ごとから自分ごとへ

「自分のこと」のように親身な対応

○デイサービス

(土曜日 & 祝日も営業・介護予防・総合事業対応)

4月のかがほ

3日《サークル》カラオケ喫茶

4日《移動美容室》カンテック

6日《イベント》花まつり

教證寺・仏教婦人会の皆さまと

11日《サークル》銀幕同好会(映画)

《定例ボランティア》うたりハの会

『生田音楽教室』生田尚子先生

17日《定例ボランティア》詩吟の会

『桜諷流』藤野明子先生ほか

18日《サークル》出かけよう会

25日《サークル》賀宝流生け花教室

27日《定例ボランティア》茶道の会

『みどり会』本永敦子先生ほか

29日《おでかけ》清光園祭

毎週金曜日 すぎや百貨店移動販売

ヤクルト移動販売

予定は変更
することが
あります



今までありそうでなかった公衆電話を1Fエレベーター前に設置しました。災害時等、携帯電話が不通となっても優先的につながります。テレカ使えます。